

別表第4 基礎工事用機械

4.1 ディーゼルパイルドライバー

検査対象の構造及び装置		検査方法		判定基準	
4.1.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.1.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.1.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.1.4 制動装置					
4.1.5 作業装置	(1) ディーゼル パイル ハンマー	a 上部シリンダー	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。	
			② ラム起動用上下ストッパー（別名カム）の摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。	
			③ ハンマー本体つり上げ用リブ（別名カム）の下面と起動装置ストッパーの摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。	
			④ シリンダー取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	④ 緩み及び脱落がないこと。	
		b 下部シリンダー	① ガイドジョーとリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。	① 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。	
			② ガイドジョー取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。	
			③ 取付けボルトの緩み及びフランジの変形の有無を調べる。	③ ボルトの緩みがなく、かつ、フランジの変形がないこと。	
			④ エンドリング、二つ割金物及び取付けフランジの変形及び摩耗量を調べる。	④ 変形がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。	
			⑤ 亀裂及び変形の有無を調べる。	⑤ 亀裂及び変形がないこと。	
			⑥ 冷却水タンク及び排水口プラグからの水漏れの有無を調べる。	⑥ 水漏れがないこと。	
		c ラム及びアンビル	① 油だめ室のプラグの緩みの有無を調べる。	① 緩みがないこと。	
			② ガイドリングの摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。	
			③ ピストンリングの折損の有無並びにへたりの量及び摩耗量を調べる。 ただし、ハンマーの作動の異常及びガス漏れがない場合は、この検査を省略することができる。	③ 折損がなく、かつ、へたりの量及び摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。	

		④ ラム凸球面及びアンビル凹球面の損傷の有無を調べる。 ただし、ハンマーの作動時に異音等の異常がない場合は、この検査を省略することができる。	④ 損傷がないこと。
		⑤ 緩衝ゴムの劣化及び摩耗の有無を調べる。	⑤ 劣化及び著しい摩耗がないこと。
		⑥ アウターエンドリング、取付けフランジ、ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑥ 緩み及び脱落がないこと。
d	燃料機器 イ 燃料タンク及び配管	① 排油プラグからの油漏れの有無を調べる。	① 油漏れがないこと。
		② ロッキングスピンドル（別名開閉レバー）の損傷の有無を調べる。	② 損傷がないこと。
		③ 燃料ろ過器ストレーナーの汚れ及び目詰まりの有無を調べる。	③ 汚れ及び目詰まりがないこと。
		④ 燃料配管の損傷及びナットの緩みの有無を調べる。	④ 損傷及び緩みがないこと。
	ロ 打撃式燃料ポンプ	① 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 緩み及び脱落がないこと。
		② カムの摩耗量を調べる。	② 摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		③ プランジャーの作動の適否を調べる。	③ 正常に作動すること。
		④ 油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
	ハ ノズル式（別名J型）燃料ポンプ	① 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 緩み及び脱落がないこと。
		② カムの摩耗量を調べる。	② 摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		③ 燃料ストップ弁の作動の適否を調べる。	③ 正常に作動すること。
		④ 油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
	e 潤滑装置 イ 潤滑油タンク及び配管	① 排油プラグからの油漏れの有無を調べる。	① 油漏れがないこと。
		② 潤滑油タンク及びロッキングスピンドル（別名開閉レバー）の損傷の有無を調べる。	② 損傷がないこと。
		③ 潤滑油ろ過器ストレーナーの汚れ及び目詰まりの有無を調べる。	③ 汚れ及び目詰まりがないこと。
		④ 潤滑油配管の損傷及び継手部からの油漏れの有無を調べる。	④ 損傷及び油漏れがないこと。
	ロ 潤滑油ポンプ	① プランジャーの作動の適否及び油漏れの有無を調べる。	① 正常に作動し、かつ、油漏れがないこと。
		② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。

	f 起動装置	① ガイドギブ（別名案内金物）とリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。	① 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② ガイドギブ取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
		③ ラムのつり上げ爪及びパウルの摩耗量を調べる。	③ 摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		④ 起動レバーの摩耗量を調べる。	④ 摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		⑤ つり上げ装置用ラチェット止め金具及びリンク等の作動の適否及び摩耗の有無を調べる。	⑤ 正常に作動し、かつ、著しい摩耗がないこと。
		⑥ ハンマーのつり上げフックの損傷の有無及び摩耗量を調べる。	⑥ 損傷がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		⑦ つり上げシーブピン及びブシュの摩耗の有無を調べる。	⑦ 著しい摩耗がないこと。
	g キャップ	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② 緩衝材（プラグを含む。）の損傷の有無を調べる。	② 著しい損傷がないこと。
		③ つりワイヤロープの損傷の有無及び取付け長さを調べる。	③ 損傷がなく、かつ、長さが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
(2) ジブ	別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
(3) リーダー	別表第1の「1.8 リーダー」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
(4) ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.1.6 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.1.7 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.1.8 安全装置		(3) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。
4.1.9 車体関係			
4.1.10 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.2 油圧パイルドライバー

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
4.2.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.4 制動装置			
4.2.5 作業装置	(1) 油圧パイルハンマー	a ケーシング	① 亀裂及び変形の有無を調べる。
			② ガイドジョーとリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。
			③ ガイドジョー取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。
			④ ラムとケーシングしゅう動部の隙間を調べる。
			⑤ 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。
			⑥ ハンマー本体つり上げ用リブ下面の摩耗の有無を調べる。
			⑦ つり上げ用ブラケット、フック及びピンの亀裂、損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。
	b ラム		① 亀裂及び著しい変形がないこと。
			② 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
			③ 緩み及び脱落がないこと。
			④ 隙間が過大又は過小でないこと。
			⑤ 緩み及び脱落がないこと。
			⑥ 著しい摩耗がないこと。
			⑦ 亀裂、損傷、著しい変形及び摩耗がないこと。
	c アンビル、キャップ及びカバー		① 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。
			② ラムとシリンダーとの連結部の亀裂、損傷、変形及び緩みの有無を調べる（シリンダー直結のものに限る。）。
			③ ワイヤロープの損傷の有無を調べる（ワイヤつり式ののものに限る。）。
			④ 落下高さ検知センサー（鉄片を含む。）溶接部の亀裂及び摩耗の有無を調べる。
			⑤ Uパッキングの損傷及び摩耗の有無を調べる（ラムピストン式ののものに限る。）。
			① 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
			② 著しい損傷がないこと。

			③ カバー及びキャップの取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
			④ カバー及びキャップの亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	④ 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
			⑤ アンビルガイド及びアンビルのかじり及び摩耗の有無を調べる。	⑤ かじり及び著しい摩耗がないこと。
			⑥ 緩衝ゴムの亀裂及び損傷の有無を調べる。	⑥ 亀裂及び損傷がないこと。
			⑦ ハイドロコンバーターの損傷及び油漏れ並びにボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑦ 損傷及び油漏れ並びにボルトの緩み及び脱落がないこと。
			⑧ 密閉式アンビル部の潤滑用油量の適否を調べる。	⑧ 量が適正であること。
			⑨ 二つ割金物の変形の有無及び摩耗量を調べる。	⑨ 変形がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		d つり上げ装置	① ガイドギブ（別名案内金物）とリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。	① 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
			② ガイドギブ取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
			③ つり上げ装置用ラチェット止め金具及びリンク等の作動の適否及び摩耗の有無を調べる。	③ 正常に作動し、かつ、著しい摩耗がないこと。
			④ ハンマーつり上げフックの損傷の有無及び摩耗量を調べる。	④ 損傷がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
			⑤ つり上げシーブのピン及びブシュの摩耗の有無を調べる。	⑤ 著しい摩耗がないこと。
	e 油圧機器	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	f 制御装置（別名コントロールボックス）	① ストローク調整装置、インターバル調整装置及びブローカウンタ等の作動の適否を調べる。		

		② キャブタイヤケーブルの損傷及び断線の有無を調べる。	② 損傷及び断線がないこと。
	(2) ジブ	別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) リーダー	別表第1の「1.8 リーダー」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4) ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) 油圧パワーユニット	① ハンマーを作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 作動油の量及び汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ 原動機及び各油圧機器（配管を含む。）からの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
4.2.6 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.7 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.8 安全装置	(3) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.2.9 車体関係			
4.2.10 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.3 硬質地盤油圧式くい圧入機

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
4.3.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限り。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限り。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.4 操縦装置	(3) 下部走行体（トラック式のものに限り。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限り。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.5 制動装置	(4) 下部走行体（ホイール式のものに限り。）	別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限り。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.6 作業装置	(1) a 減速機	① 無負荷状態で作動させて異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。 ② カップリングの取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。 ③ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。 ④ ケース内及びスィベル部からの油漏れの有無を調べる。	① 異常振動、異音及び異常発熱がないこと。 ② 緩み及び脱落がないこと。 ③ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。 ④ 油漏れがないこと。
	b オーガスクリュー	① スクリューロッド、羽根及び継手部の損傷及び曲がりの有無並びに摩耗量の有無を調べる。 ② スクリュー内管におけるモルタル、ベントナイトその他異物の詰まりの有無を調べる。	① 著しい損傷及び曲がりがなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。 ② 詰まりがないこと。
	c オーガーヘッド	① 羽根の損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。 ② 爪の損傷の有無及び取付け状態を調べる。 ③ ヘッド弁の損傷及び摩耗の有無並びに開閉状態を調べる。 ④ ヘッド内管におけるモルタル、ベントナイトその他異物の詰まりの有無を調べる。	① 著しい損傷、変形及び著しい摩耗がないこと。 ② 著しい損傷がなく、かつ、取付け状態が適正であること。 ③ 損傷及び著しい摩耗がなく、かつ、正常に作動すること。 ④ 詰まりがないこと。
	d オーガーケーシング	① オーガーケーシング、排土口及び継手部の損傷の有無及び摩耗量を調べる。 ② ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 著しい損傷がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。 ② 緩み及び脱落がないこと。
	e 先行ガイド	先行ガイドの損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。	著しい損傷、変形及び摩耗がないこと。

		④ ホースリールを操作し、作動の適否を調べる。	④ 正常に作動すること。
	c 昇降設備、作業ステージ及びステップ	① 亀裂、損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい損傷、変形及び著しい摩耗がないこと。
		② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	d しゅう動部	① 損傷及び摩耗の有無を調べる。	① 著しい損傷及び摩耗がないこと。
		② 給油脂状態を調べる。	② 給油脂が十分であること。
	e ギヤ、ピニオン及び駆動軸	① 回転させて、引っ掛かり及び異音の有無を調べる。	① 円滑に回転し、かつ、異音がないこと。
		② 回転ギヤの亀裂及び摩耗の有無を調べる。	② 亀裂及び著しい摩耗がないこと。
		③ 取付けボルトの緩み、折損及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み、折損及び脱落がないこと。
		④ 軸受の摩耗の有無を調べる。	④ 著しい摩耗がないこと。
(3) 反力架台	a フレーム	フレームの損傷及び変形の有無を調べる。	著しい損傷及び変形がないこと。
	b アーム	① アームの損傷及び変形の有無を調べる。	① 著しい損傷及び変形がないこと。
		② アームを開閉させて、スムーズに動くか調べる。	② スムーズに動くこと。
(4) パワーユニット		① 圧入機を作動させて、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 作動油の量及び汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ 原動機及び各油圧機器（配管を含む。）からの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
		④ ケーブルの作動の適否及び損傷の有無を調べる。	④ 正常に作動し、かつ、著しい損傷がないこと。
(5) 油圧装置	a フィルター b 配管 c 油圧モーター d 油圧シリンダー e 方向制御弁 f 電磁弁 g 圧力制御弁 h 流量制御弁 i 逆止め弁 j アキュムレーター k 回転継手	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(6) 電気機器	a 各センサー	各操作を行い、作動の適否を調べる。	正常に作動し、かつ、適正に制御されていること。
		b モニター	① 各操作を行い、作動の適否を調べる。 ② モニターの破損及び水等の浸入の有無を調べる。	① 正常に作動すること。 ② 破損及び水等の浸入がないこと。
		c 安全灯及び警報装置	① 各操作を行い、作動の適否及び取付け状態を調べる。 ② 各安全灯のレンズの破損及び水等の浸入の有無を調べる。	① 正常に作動し、かつ、取付け状態が適正であること。 ② 破損及び水等の浸入がないこと。
		d 配線	① 接続部の緩みの有無を調べる。 ② 損傷の有無を調べる。	① 緩みがないこと。 ② 損傷がないこと。
		e 操作盤	① 各スイッチを操作し、作動の適否を調べる。 ② ケーブル及びコードの損傷、ねじれ及び断線の有無並びに絶縁の状態を調べる。 ③ 操作盤の破損及び水等の浸入の有無を調べる。	① 正常に作動すること。 ② 損傷、ねじれ及び断線がなく、かつ、絶縁が良好であること。 ③ 破損及び水等の浸入がないこと。
		f エンジン停止スイッチ	① スwitchを操作し、作動の適否を調べる。 ② 取付け部の緩みの有無を調べる。	① 正常に作動すること。 ② 緩みがないこと。
	(7) つり具	a つりワイヤ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		b シャックル及びつりボルト	① スナップピンの損傷、変形及び脱落の有無を調べる。 ② シャックル及びつりボルトの亀裂、変形及び損傷の有無を調べる。 ③ ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 著しい損傷、変形及び脱落がないこと。 ② 亀裂、著しい変形及び損傷がないこと。 ③ 緩み及び脱落がないこと。
		c つりベルト	① 長さその他仕様の適否を調べる。 ② 損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。	① 仕様が当該車体の構造及び性能に照らし、適正であること。 ② 損傷、著しい変形及び摩耗がないこと。
4.3.7 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.3.8 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.3.9 安全装置	(3) 下部走行体（トラック式のものに限定。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.3.10 車体関係	(4) 下部走行体（ホイール式のものに限定。）	別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		

	(5) 表示板	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.3.11 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.4 振動パイルドライバー（電動式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置			検査方法		判定基準	
4.4.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.4.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.4.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.4.4 操縦装置	(3) 下部走行体（トラック式のものに限る。）		別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.4.5 制動装置	(4) 下部走行体（ホイール式のものに限る。）		別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.4.6 作業装置	(1) 振動パイルハンマー	a 緩衝機	イ ハンガー	亀裂及び損傷の有無を調べる。	亀裂及び著しい損傷がないこと。	
			ロ シャックル及びシャックルピン	① 亀裂の有無及び摩耗量を調べる。	① 亀裂がなく、かつ、摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。	
				② シャックル止め及び軸止め金具の緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。	
			ハ シャフト及びブシュ	摩耗の有無を調べる。	著しい摩耗がないこと。	
			ニ スプリング	① コイルスプリングの亀裂の有無を調べる。	① 亀裂がないこと。	
				② ハンマーをつらない状態で、主スプリングのへたりの有無を調べる。	② 著しいへたりがないこと。	
				③ ハンマーをつった状態で、補助スプリングのへたりの有無を調べる。	③ 著しいへたりがないこと。	
				④ クッションゴム及びストップゴムの亀裂、劣化及び脱落の有無を調べる。	④ 亀裂、劣化及び脱落がないこと。	
		b 電動機	別表第1の「1.1.2 電動機」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
		c 起振機	① 無負荷状態で作動させ、異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。		
			② 亀裂及び変形の有無を調べる。	② 亀裂及び著しい変形がないこと。		
			③ ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。		
			④ つり環の摩耗の有無を調べる。	④ 著しい摩耗がないこと。		
			⑤ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	⑤ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。		
			⑥ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑥ 油漏れがないこと。		

	d チャック	イ チャック 歯	① 摩耗の有無を調べる。 ② 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 著しい摩耗がないこと。 ② 緩み及び脱落がないこと。
		ロ チャック	作動させて連動機構部のがた及びかみ合い状態を調べる。	著しいがたがなく、かつ、かみ合いが適正であること。
		ハ 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） ニ 油圧シリンダー	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		ホ 逆止め弁（パイロットチェック弁を含む。）	① チャックを作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
			② 本体、配管及び継手部からの油漏れの有無を調べる。	② 油漏れがないこと。
			③ 取付け状態を調べる。	③ 取付け状態が適正であること。
	e 油圧パワーユニット		① チャックを作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
			② 作動油の量及び汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
			③ 原動機及び各油圧機器からの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
	(2) ジブ	別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(3) リーダー	別表第1の「1.8 リーダー」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(4) ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.4.7 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.4.8 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.4.9 安全装置	(3) 下部走行体（トラック式のものに限る。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.4.10 車体関係	(4) 下部走行体（ホイール式のものに限る。）	別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(5) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.4.11 総合テスト			走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.5 振動パイルドライバー（油圧式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置		検 査 方 法		判 定 基 準			
4.5.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
4.5.2 動力伝達装置	(1) パワー・ショベル系機体		別表第3の「3.1 パワー・ショベル及びドラグ・ショベル（クローラ式のものに限る。）」又は「3.2 パワー・ショベル及びドラグ・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
4.5.3 走行装置	(2) クレーン系機体	a 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
4.5.4 操縦装置		b 下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
4.5.5 制動装置		c 下部走行体（トラック式のものに限る。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
		d 下部走行体（ホイール式のものに限る。）	別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。				
4.5.6 作業装置	(1) 振動パイルハンマー	a 緩衝機	イ ハンガーフレーム	亀裂及び損傷の有無を調べる。	亀裂及び著しい損傷がないこと。		
			ロ つり金具	亀裂及び摩耗の有無を調べる。	亀裂及び著しい摩耗がないこと。		
			ハ ピン及びブシュ	摩耗の有無を調べる。	著しい摩耗がないこと。		
			ニ シャックル及びシャックルピン	この表の「4.4 振動パイルドライバー（電動式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
			ホ スプリング	① コイルスプリングの亀裂の有無を調べる。	① 亀裂がないこと。		
		② ハンマーをつらない状態で、コイルスプリングのへたりの有無を調べる。		② 著しいへたりがないこと。			
		③ ラバースプリング及びブストップゴムの亀裂及び劣化の有無を調べる。		③ 亀裂及び劣化がないこと。			
		④ ラバースプリング及びブストップゴムの取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。		④ 緩み及び脱落がないこと。			
		ヘ ロック機構（垂直、水平、旋回に限る。）	① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。			
			② 操作して掛かり及び外れの状態を調べる。	② 確実に作動すること。			
	③ 油圧シリンダーからの油漏れの有無を調べる。		③ 油漏れがないこと。				
	④ 油圧ホースのひび割れその他損傷、劣化及び取付け状態における干渉の有無を調べる。		④ ひび割れその他損傷、劣化及び干渉がないこと。				

b 起振機	イ 起振機本体	① 無負荷状態で作動させ、異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② 亀裂及び変形の有無を調べる。	② 亀裂及び著しい変形がないこと。
		③ ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
		④ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	④ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		⑤ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑤ 油漏れがないこと。
	ロ 油圧モーター ハ 配管（ホース類、高圧パイプに限る。）	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	ニ ベルトカバー及びチェーンカバー	① 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	① 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
		② 取付け状態を調べる。	② 取付け状態が適正であること。
	c チャック	イ チャック ロ チャック	この表の「4.4 振動パイルドライバー（電動式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。
		ハ 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） ニ 油圧シリンダー	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。
		ホ 逆止め弁（パイロットチェック弁を含む。）	この表の「4.4 振動パイルドライバー（電動式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。
d 油圧パワーユニット		① 起振機及びチャックを作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 作動油の量及び汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ 原動機及び各油圧機器（配管を含む。）からの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
e 油圧コントロールユニット		① 方向制御弁を操作し、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
		② 各油圧機器（配管を含む。）からの油漏れの有無を調べる。	② 油漏れがないこと。
f エクステンションアーム		① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。

			② ハンマーを作動させ、各連結部のがたの有無を調べる。	② 著しいがたがないこと。
			③ 取付けボルト、ナット及び取付けピンの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
			④ シーブの溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	④ 著しい摩耗がないこと。
			⑤ シーブのピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	⑤ 著しい摩耗がないこと。
	(2) ブーム、アーム及びリンク（パワー・ショベル系機体に限る。）		① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷器等で調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
			② ハンマーを作動させ、各連結部のがたの有無を調べる。	② 著しいがたがないこと。
			③ 取付けボルト、ナット及び取付けピンの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
			④ ピンシールの損傷の有無を調べる。	④ 損傷がないこと。
	(3) ジブ（クレーン系機体に限る。）		別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.5.7 油圧装置 4.5.8 操作装置 4.5.9 安全装置 4.5.10 車体関係	(1) パワー・ショベル系機体		別表第3の「3.1 パワー・ショベル及びドラグ・ショベル（クローラ式のものに限る。）」又は「3.2 パワー・ショベル及びドラグ・ショベル（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(2) クレーン系機体	a 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		b 下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		c 下部走行体（トラック式のものに限る。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
		d 下部走行体（ホイール式のものに限る。）	別表第1の「1.6 下部走行体（ホイール式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3) 給油脂		別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.5.11 総合テスト			走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.6 アース・ドリル（油圧式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置		検査方法		判定基準	
4.6.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.6.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.6.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.6.4 制動装置					
4.6.5 作業装置	(1) ドリル装置	a アースドリルバケット（拡底バケットを含む。）	① 亀裂及び損傷の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい損傷がないこと。	
			② 爪及びシャンクのがた及び摩耗の有無を調べる。	② 著しいがた及び摩耗がないこと。	
			③ 底蓋開閉装置の作動の適否を調べる。	③ 正常に作動すること。	
			④ 底蓋の損傷の有無を調べる。	④ 著しい損傷がないこと。	
			⑤ サイドカッターの摩耗の有無並びに取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑤ 著しい摩耗並びに取付けボルトの緩み及び脱落がないこと。	
			⑥ ラッチキーパー及びラッチバーの摩耗の有無を調べる。	⑥ 著しい摩耗がないこと。	
			⑦ レバー及びピンの損傷及び摩耗の有無を調べる。	⑦ 損傷及び著しい摩耗がないこと。	
			⑧ ジョイントピンの損傷及び曲がりの有無を調べる。	⑧ 損傷及び著しい曲がりがないこと。	
			⑨ 拡大翼の変形及び摩耗の有無を調べる（拡底バケットに限る。）	⑨ 著しい変形及び摩耗がないこと。	
			⑩ カッターの摩耗及び割れの有無を調べる。	⑩ 著しい摩耗及び割れがないこと。	
	b ケリーバー	① 損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。	① 損傷、著しい変形及び摩耗がないこと。		
		② 緩衝用ボルトの損傷及び曲がりの有無を調べる。	② 著しい損傷及び曲がりがないこと。		
		③ 緩衝用ばねの損傷及びへたりの有無を調べる。	③ 損傷及びへたりがないこと。		
		④ 緩衝用ナットの緩みの有無を調べる。	④ 緩みがないこと。		
⑤ ストッパーの損傷及び変形の有無を調べる。		⑤ 損傷及び著しい変形がないこと。			
⑥ 回転継手の回転の状態を調べる。		⑥ 円滑に回転すること。			
		⑦ 回転継手からの油漏れ及び取付けピンの緩みの有無を調べる。	⑦ 油漏れ及び取付けピンの緩みがないこと。		

	c ケリーバー押下げ装置		ケリーバー押下げ装置の作動の適否を調べる。	正常に作動すること。
	d フロントフレーム		フレームの損傷及び変形の有無を調べる。	損傷及び著しい変形がないこと。
	e ケリードライブ装置		① 作動させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
			② ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
			③ ケースからの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
			④ バッファの亀裂の有無を調べる。	④ 著しい亀裂がないこと。
	f フレームサポート及びフレーム起伏ガイドシーブ		① シープブラケット及びターンバックルの亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
			② シープの溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
			③ シープのピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。
	g 油圧機器	イ 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） ロ 油圧モーター ハ 油圧シリンダー ニ 電磁弁	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
(2) ジブ		別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
(3) ワイヤロープ		別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.6.6 油圧装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.6.7 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.6.8 安全装置	(3) 給油脂		別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.6.9 車体関係				
4.6.10 総合テスト			走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.7 アース・ドリル（機械式のものに限る。）

検査対象の構造及び装置		検査方法		判定基準	
4.7.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.7.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.7.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.7.4 制動装置					
4.7.5 作業装置	(1) ドリル装置	a アースドリルバケット	① 亀裂及び損傷の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい損傷がないこと。	
			② 爪及びシャンクのがた及び摩耗の有無を調べる。	② 著しいがた及び摩耗がないこと。	
			③ 底蓋開閉装置の作動の適否を調べる。	③ 正常に作動すること。	
			④ 底蓋の損傷の有無を調べる。	④ 著しい損傷がないこと。	
			⑤ サイドカッターの摩耗の有無並びに取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑤ 著しい摩耗並びに取付けボルトの緩み及び脱落がないこと。	
			⑥ ラッチキーパー及びラッチバーの摩耗の有無を調べる。	⑥ 著しい摩耗がないこと。	
			⑦ レバー及びピンの損傷及び摩耗の有無を調べる。	⑦ 損傷及び著しい摩耗がないこと。	
			⑧ ジョイントピンの損傷及び曲がりの有無を調べる。	⑧ 損傷及び著しい曲がりがないこと。	
		b ケリーバー	この表の「4.6 アース・ドリル（油圧式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
		c ケリーバー押下げ装置（油圧押下げ装置を含む。）	① スイベルブロック及びコッターの摩耗の有無を調べる。	① 著しい摩耗がないこと。	
			② コッターばねの損傷及びへたりの有無を調べる。	② 損傷及びへたりがないこと。	
			③ ブラケット及びステーの亀裂及び変形の有無を調べる。	③ 亀裂及び著しい変形がないこと。	
			④ 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	④ 緩み及び脱落がないこと。	
		d フロントフレーム	① フレームの損傷及び変形の有無を調べる。	① 損傷及び著しい変形がないこと。	
			② フレームレバーの変形及び摩耗の有無を調べる。	② 著しい変形及び摩耗がないこと。	
			③ ブームフットレバーの変形の有無を調べる。	③ 著しい変形がないこと。	
			④ ばねの損傷及びへたりの有無を調べる。	④ 損傷及びへたりがないこと。	
			⑤ フレームロック用爪の変形及び摩耗の有無を調べる。	⑤ 著しい変形及び摩耗がないこと。	

		e	ドラム軸	⑥ カバーの損傷及び変形の有無を調べる。	⑥ 損傷及び著しい変形がないこと。
				⑦ テークアップのアジャストボルトの損傷の有無を調べる。	⑦ 著しい損傷がないこと。
				① 軸及び軸受の摩耗の有無を調べる。	① 著しい摩耗がないこと。
				② ドラムの損傷及び摩耗の有無を調べる。	② 著しい損傷及び摩耗がないこと。
				③ チェーンの緩みを調べる。	③ 張り具合が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
				④ チェーン及びスプロケットの亀裂及び摩耗の有無を調べる。	④ 亀裂及び著しい摩耗がないこと。
				⑤ 滑りクラッチのかみ合いの適否及び動き具合を調べる。	⑤ かみ合いが適正で、かつ、動きが円滑であること。
				⑥ ギヤボックスの異音及び油漏れの有無を調べる。	⑥ 異音及び油漏れがないこと。
		f	フレームサポート及びフレーム起伏ガイドシープ	⑦ ギヤ付き軸の摩耗の有無を調べる。	⑦ 著しい摩耗がないこと。
				⑧ バッファの損傷の有無を調べる。	⑧ 著しい損傷がないこと。
				この表の「4.6 アース・ドリル（油圧式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
				g	油圧機器
(2) ジブ		別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
(3) ワイヤロープ		別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.7.6 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.7.7 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.7.8 安全装置	(3) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4.7.9 車体関係					
4.7.10 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。		

4.8 一体型せん孔機

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
4.8.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.8.2 動力伝達装置	(1) 流体継手	① 作動させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		③ 油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
	(2) Vプーリー	① 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	① 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
		② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(3) Vベルト（ポンプ駆動用、ウインチ駆動用に限る。）	① 緩みを調べる。	① 張り具合が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		② 損傷及び摩耗の有無を調べる。	② 著しい損傷及び摩耗がないこと。
4.8.3 走行装置	下部走行体（クローラ式のものに限る。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.8.4 制動装置			
4.8.5 作業装置	(1) ウインチ	① 作動させて異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	① 異常振動、異音及び異常発熱がないこと。
		② ブレーキ及びクラッチの作動の適否を調べる。	② 正常に作動すること。
		③ ドラムの亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		④ バンドの亀裂及び変形並びにライニングの摩耗の有無を調べる。	④ 亀裂及び変形並びにライニングの著しい摩耗がないこと。
	(2) ウインチ減速機	① 作動させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② チェーンの損傷及び摩耗の有無並びに伸びを調べる。	② 損傷及び著しい摩耗がなく、かつ、伸びが当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		③ スプロケットの損傷及び摩耗の有無を調べる。	③ 損傷及び著しい摩耗がないこと。
		④ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	④ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		⑤ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑤ 油漏れがないこと。

(3) ウインチ 操作装置	a マスターシリンダー	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	b パワーシリンダー	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	c ロッド、リンク及びケーブル類	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	d ホース及びパイプ	① 圧力をかけ、油漏れの有無を調べる。	① 油漏れがないこと。
(4) ブーム	a ブーム	② ひび割れその他損傷及び劣化の有無を調べる。	② 著しいひび割れその他損傷及び劣化がないこと。
		③ ホースクランプ、パイプ支持部の取付けボルト及びナットの緩み及び脱落並びにホース及びパイプと車体との干渉の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がなく、かつ、干渉がないこと。
		① 亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	① 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		② 取付けピン及び固定ピンの摩耗量を調べる。	② 摩耗量が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		③ シーブの溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。
		④ シーブのピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	④ 著しい摩耗がないこと。
	b キャリッジ	⑤ はしご、手すり及び踊り場の損傷及び変形の有無を調べる。	⑤ 損傷及び変形がないこと。
		⑥ ブームステーの変形及び摩耗の有無を調べる。	⑥ 著しい変形及び摩耗がないこと。
		① 損傷及び摩耗の有無を調べる。	① 損傷及び著しい摩耗がないこと。
	c 排土板	② ストッパーの作動の適否を調べる。	② 正常に作動すること。
		③ 緩衝機の平ばねのへたりの有無を調べる。	③ へたりのないこと。
	d クラウンヘッド	亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		① 変形及び摩耗の有無を調べる。	① 著しい変形及び摩耗がないこと。
	e シュート	② クラウンボール及びピンの摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
		亀裂及び変形の有無を調べる。	亀裂及び著しい変形がないこと。

(5) チュービング装置	a クランピングユニット	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② 連結用のピン及びブシュの変形及び摩耗の有無を調べる。	② 著しい変形及び摩耗がないこと。
		③ 取付け部の変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 著しい変形及び摩耗がないこと。
		④ 締付けシリンダーを作動させ、チューブの締めしろを調べる。	④ 締めしろが適正であること。
	b アーム	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② 揺動シリンダーの取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	c 下部ガイド	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② ガイドピン及びコッターの緩みの有無を調べる。	② 緩みがないこと。
	(6) 旋回装置	この表の「4.8.5 作業装置」の「(5) チュービング装置」の「a クランピングユニット」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	b 減速機	① 作動させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② ピニオン及びギヤの損傷及び摩耗の有無を調べる。	② 損傷及び著しい摩耗がないこと。
		③ ケースの亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		④ スライド部の亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	④ 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		⑤ ボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑤ 緩み及び脱落がないこと。
		⑥ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	⑥ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		⑦ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑦ 油漏れがないこと。
	c クランプ開閉装置	① タイヤの空気圧を調べる。	① 空気圧が適正であること。
		② タイヤの亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	② 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
		③ 回転体の損傷及び摩耗の有無を調べる。	③ 損傷及び著しい摩耗がないこと。
(7) ハンマーグラブ		① グラブヘッドとクラウンヘッドとの連結状態を調べる。	① 確実に連結されていること。
		② 作動させてシェルの開閉状態を調べる。	② 正常に作動すること。
		③ グラブの亀裂、損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 亀裂、損傷、著しい変形及び摩耗がないこと。
		④ シェルの亀裂、損傷、変形及び摩耗の有無を調べる。	④ 亀裂、損傷、著しい変形及び摩耗がないこと。
		⑤ 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	⑤ 緩み及び脱落がないこと。

	(8) ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.8.6 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、 高圧パイプに限る。 ） (4) 油圧ポンプ (5) 油圧モーター (6) 油圧シリンダー (7) 方向制御弁 (8) 電磁弁 (9) 圧力制御弁 (10) オイルクーラー (11) アキュムレーター (12) 回転継手	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(13) 走行関係油圧機器	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.8.7 操作装置	操作レバー	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.8.8 安全装置 4.8.9 車体関係	(1) 前部フレーム	① 損傷及び変形の有無を調べる。	① 損傷及び著しい変形がないこと。
		② 揺動シリンダーの取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(2) 後部フレーム	① 亀裂、損傷及び変形の有無を調べる。	① 亀裂、損傷及び著しい変形がないこと。
		② ボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(3) アウトリガー	① 前部及び伸び部のアウトリガーを作動させ、引っ掛かり等の異常の有無を調べる。	① 円滑に作動すること。
		② 構造部の変形及び摩耗の有無を調べる。	② 著しい変形及び摩耗がないこと。
		③ 固定ピン部の変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 著しい変形及び摩耗がないこと。
		④ 前部アウトリガーのフットアセンブリーの締付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	④ 緩み及び脱落がないこと。
		⑤ 後部アウトリガーのインナーボックスのがたの有無を調べる。	⑤ 著しいがたがないこと。
	(4) 表示板	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(5) 警報装置	別表第2の「2.4 スクレープ・ドーザー」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) 計器類（油圧計、 水温計、電流計を含む。）	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(7) 下部架台フレーム及びブラケット（クローラフレームを含む。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(8) 給油脂	各部の給油脂状態を調べる。	給油脂が十分であること。
4. 8. 10 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。		各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。

4.9 分離型せん孔機

検査対象の構造及び装置		検査方法		判定基準
4.9.1 原動機	ディーゼルエンジン		別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.9.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体		別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.9.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限る。）		別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.9.4 制動装置				
4.9.5 作業装置	(1) 把持装置（くさび式及びバンド式に限る。）	a メインチャック	① チャックフレームの亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。
			② 締付けバンド、くさび及びスペーサーの亀裂、変形及び把持部の摩耗の有無を調べる。	② 亀裂、変形及び著しい摩耗がないこと。
			③ 連結用のリンク及びピンの変形及び摩耗を調べる。	③ 変形及び著しい摩耗がないこと。
		b サブチャック	① 締付けバンド、くさび及びスペーサーの亀裂、変形及び把持部の摩耗の有無を調べる。	① 亀裂、変形及び著しい摩耗がないこと。
			② 連結用のリンク及びピンの変形及び摩耗を調べる。	② 変形及び著しい摩耗がないこと。
	(2) 押込み・引抜き装置	a ガイドポスト	① ガイドポストの亀裂、変形及びブシュの摩耗の有無を調べる。	① 亀裂、変形及び著しい摩耗がないこと。
			② ガイドポストの取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
		b ステージ	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。
			② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(3) 回転駆動装置	a ドライブフレーム	① ドライブフレームの亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。
			② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
		b 回転減速機	① 回転中の異音及び異常発熱の有無を調べる。	① 異音及び異常発熱がないこと。
			② ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
			③ ケース内の封入グリース量及び汚れの有無を調べる。	③ 封入グリース量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		c 旋回ベアリング及び旋回ギヤ	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(4) 水平調整装置	a ベースフレーム	① ベースフレームの亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。
			② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
		b レベルジャッキ	球座のかじり及び変形の有無を調べる。	かじり及び著しい変形がないこと。
		c 反力装置（おもり式、バー式のものに限定。）	① 架台の亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び変形がないこと。
			② 取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
	(5) 油圧装置	a 配管（ホース類、高圧パイプに限る。） b 油圧シリンダー c 油圧モーター d 方向制御弁 e 電磁弁 f 逆止め弁 g アクキュムレーター	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(6) パワーユニット		① セン孔機を作動させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
			② 作動油の量及び汚れの有無を調べる。	② 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
			③ 原動機及び各油圧機器（配管を含む。）からの油漏れの有無を調べる。	③ 油漏れがないこと。
			④ リモコン、角度計及びケーブルの作動の適否及び損傷の有無を調べる。	④ 正常に作動し、かつ、著しい損傷がないこと。
	(7) ジブ	別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(8) ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(9) ハンマーグラブ	この表の「4.8 一体型セン孔機」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.9.6 油圧装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.9.7 操作装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.9.8 安全装置	(3) 表示板	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.9.9 車体関係	(4) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
4.9.10 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。	

4.10 アース・オーガー

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
4.10.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.2 動力伝達装置	(1) 上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.3 走行装置	(2) 下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.4 操縦装置	(3) 下部走行体（トラック式のものに限定。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.5 制動装置			
4.10.6 作業装置	(1) 掘削機		
	a 減速機	① 無負荷状態で作動させて異音の有無を調べる。	① 異音がないこと。
		② カップリングの取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。
		③ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	③ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
		④ ケース、スィベル部及び下部カップリングからの油漏れの有無を調べる。	④ 油漏れがないこと。
	b 減速機ホルダー	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。
		② シーブの溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
		③ シーブのピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。
		④ ガイドジョーとリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。	④ 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
		⑤ バランスウエイト及びカウンターウエイトの取付け状態を調べる。	⑤ 取付け状態が適正であること。
	c オーガースクリュー	① スクリューロッド、羽根及び継手部の損傷、曲がり及び摩耗の有無を調べる。	① 著しい損傷、曲がり及び摩耗がないこと。
		② スクリュー内管におけるモルタル、ベントナイトその他異物の詰まりの有無を調べる。	② 詰まりがないこと。
		③ スクリュー芯金及びパッキンの損傷及び摩耗の有無を調べる。	③ 損傷及び著しい摩耗がないこと。
	d オーガーヘッド	① 羽根の損傷、曲がり及び摩耗の有無を調べる。	① 著しい損傷、曲がり及び摩耗がないこと。

			② 爪の損傷の有無及び取付け状態を調べる。	② 著しい損傷がなく、かつ、取付け状態が適正であること。
			③ ヘッド弁の損傷及び摩耗の有無並びに開閉状態を調べる。	③ 損傷及び著しい摩耗がなく、かつ、正常に作動すること。
			④ ヘッド内管におけるモルタル、ベントナイトその他異物の詰まりの有無を調べる。	④ 詰まりがないこと。
	e	電動機	別表第1の「1.1.2 電動機」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	f	油圧機器	別表第1の「1.2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	g	トップシープ	① 溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	① 著しい摩耗がないこと。
			② ピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
	h	中間振れ止め装置	① ガイドジョーとリーダーガイドパイプとの隙間を調べる。	① 隙間が当該車体の構造及び性能に照らし、適正な範囲にあること。
			② シープの溝部及びフランジ部の摩耗の有無を調べる。	② 著しい摩耗がないこと。
			③ シープのピン及び軸受の摩耗の有無を調べる。	③ 著しい摩耗がないこと。
			④ スペーサーの損傷及び摩耗の有無を調べる。	④ 損傷及び著しい摩耗がないこと。
	i	下部振れ止め装置	① ローラーの損傷及び摩耗の有無並びに回転の状態を調べる。	① 損傷及び著しい摩耗がなく、かつ、円滑に回転すること。
			② ホルダークランプの亀裂及び損傷の有無並びに取付け状態を調べる。	② 亀裂及び損傷がなく、かつ、取付け状態が適正であること。
	(2)	ジブ	別表第1の「1.7 ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(3)	リーダー	別表第1の「1.8 リーダー」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
	(4)	ワイヤロープ	別表第1の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.7	(1)	上部旋回体	別表第1の「1.3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.8	(2)	下部走行体（クローラ式のものに限定。）	別表第1の「1.4 下部走行体（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.9	(3)	下部走行体（トラック式のものに限定。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.10.10	(4)	給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限定。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

4. 10. 11 総合テスト	走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。
--------------------	--	-----------------------------------

4.11 建柱車

検査対象の構造及び装置		検査方法	判定基準
4.11.1 原動機	ディーゼルエンジン	別表第1の「1.1.1 ディーゼルエンジン」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.11.2 動力伝達装置 4.11.3 走行装置 4.11.4 操縦装置 4.11.5 制動装置	下部走行体（トラック式のものに限る。）	別表第1の「1.5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4.11.6 作業装置	(1) オーガー装置		
	a オーガーサポート	① 亀裂及び変形の有無を調べる。 ② オーガーサポートの連結部のがた及びスライダの摩耗の有無を調べる。 ③ オーガー自動スライド装置のスプリングのへたりの有無及び作動の適否を調べる。 ④ スライダー取付けボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。 ② 上下及び左右に著しいがたがなく、かつ、スライダーの摩耗がないこと。 ③ へたりがなく、かつ、正常に作動すること。 ④ 緩み及び脱落がないこと。
	b アーム	① 亀裂及び変形の有無を調べる。 ② ピン及びブシュの摩耗の有無を調べる。 ③ ピン取付けナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと。 ② 著しい摩耗がないこと。 ③ 緩み及び脱落がないこと。
	c オーガー減速機	① 無負荷状態で作動させて異音の有無を調べる。 ② ボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。 ③ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。 ④ ケース及び出力軸からの油漏れの有無を調べる。 ⑤ サポート及びモーターケースの亀裂及び変形の有無を調べる。 ⑥ サポートのボルトの緩み及び脱落の有無を調べる。	① 異音がないこと。 ② 緩み及び脱落がないこと。 ③ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。 ④ 油漏れがないこと。 ⑤ 亀裂及び著しい変形がないこと。 ⑥ 緩み及び脱落がないこと。
	d オーガースクリュー	① スクリューパイプ及びオーガースレード（別名羽根）の損傷、曲がり及び摩耗の有無を調べる。 ② 伸縮用シャフトの伸縮状態を調べる。	① 著しい損傷、曲がり及び摩耗がないこと。 ② 伸縮状態が適正であること。

			③ 固定ピンの損傷及び変形の有無並びにロック状態を調べる。	③ 損傷及び変形がなく、かつ、ロック状態が適正であること。
			④ スクリュー取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	④ 緩み及び脱落がないこと。
			⑤ スクリューストッパーの損傷の有無を調べる。	⑤ 損傷がないこと。
	e オーガーヘッド		① 損傷、曲がり及び摩耗の有無を調べる。	① 著しい損傷、曲がり及び摩耗がないこと。
			② カッター及び爪の損傷の有無を調べる。	② 著しい損傷がないこと。
			③ カッター取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
	f 格納装置		① スターの亀裂及び開きの有無を調べる。	① 亀裂及び著しい開きがないこと。
			② カムの摩耗の有無及び作動の適否を調べる。	② 著しい摩耗がなく、かつ、作動が適正であること。
	g 巻過ぎ防止装置		① 作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
			② 油漏れの有無を調べる。	② 油漏れがないこと。
			③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
	h 送油ガイド		① ジブを伸縮させ、作動の適否を調べる。	① 正常に作動すること。
			② ケース、帯板及びシーブの損傷の有無を調べる。	② 著しい損傷がないこと。
			③ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。	③ 緩み及び脱落がないこと。
	i ウインチ装置		① 作動させて異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	① 異常振動、異音及び異常発熱がないこと。
			② 最大定格荷重の荷をつり、ブレーキの効き具合を調べる。	② 効き具合が正常であること。
			③ ドラムの亀裂、変形及び摩耗の有無を調べる。	③ 亀裂、著しい変形及び摩耗がないこと。
			④ ケース内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	④ 油量が適正で、かつ、著しい汚れがないこと。
			⑤ ケースからの油漏れの有無を調べる。	⑤ 油漏れがないこと。
			⑥ 取付け状態を調べる。	⑥ 取付け状態が適正であること。
	j ジブ伸縮装置	イ ワイヤガード	① ジブを伸縮させ、各ワイヤガード間の干渉の有無を調べる。	① 干渉がないこと。
			② ガイド及びスライダーの損傷及び摩耗の有無並びに取付け状態を調べる。	② 著しい損傷及び摩耗がなく、かつ、取付け状態が適正であること。
		ロ フック平行移動装置	ジブを伸縮させ、ジブ先端とつりフックとの間隔を調べる。	間隔が常に一定であること。
	(2) ジブ		別表第1の「1.7.2 ボックス構造ジブ」の検査方法及び判定基準を適用すること。	

	(3) ワイヤロープ	別表第 1 の「1.9 ワイヤロープ」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4. 11. 7 油圧装置	(1) 作動油タンク (2) フィルター (3) 配管（ホース類、 高压パイプに限る。 ） (4) 油圧ポンプ (5) 油圧モーター (6) 油圧シリンダー (7) 方向制御弁 (8) 圧力制御弁 (9) 逆止め弁 (10) 回転継手	別表第 1 の「1. 2 油圧装置」の検査方法及び判定基準を適用すること。			
4. 11. 8 操作装置	レバー、ペダル及びハン ドル	別表第 1 の「1. 3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること 。			
4. 11. 9 安全装置 4. 11. 10 車体関係	(1) 旋回装 置	a ターンテーブ ル	亀裂及び変形の有無を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は探傷 器等で調べる。	亀裂及び著しい変形がないこと。	
		b 旋回ベアリン グ及び旋回ギヤ	別表第 1 の「1. 3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること 。		
		c 旋回減速機	別表第 3 の「3. 1 パワー・ショベル及びドラグ・ショベル（クローラ式 のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。		
	(2) 架台装 置	a サブフレーム （操作架台を含 む。）	① フレームの亀裂及び変形の有無 を調べる。 亀裂の存在が疑われる場合は 探傷器等で調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと 。	
			② 取付けボルト及びナットの緩み 及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。	
		b ジブ受け及び ポール受け	① 亀裂及び変形の有無を調べる。	① 亀裂及び著しい変形がないこと 。	
			② 取付けボルト及びナットの緩み 及び脱落の有無を調べる。	② 緩み及び脱落がないこと。	
	(3) ペダルロック及び レバーロック	別表第 1 の「1. 3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること 。			
	(4) アウト リガ ー	a ビーム、ビー ムボックス及び フロート	別表第 1 の「1. 5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方 法及び判定基準を適用すること。		
		b ロック及びロ ックピン			
(5) 座席 (6) 昇降設備及び滑り 止め (7) 表示板	別表第 1 の「1. 3 上部旋回体」の検査方法及び判定基準を適用すること 。				
(8) 下部走行体（トラ ック式のものに限る 。）	別表第 1 の「1. 5 下部走行体（トラック式のものに限る。）」の検査方 法及び判定基準を適用すること。				

	(9) 給油脂	別表第2の「2.1 ブル・ドーザー及びトラクター・ショベル（クローラ式のものに限る。）」の検査方法及び判定基準を適用すること。	
4. 11. 11 総合テスト		走行及び各作業装置の操作を行い、機能することを確認し、異常振動、異音及び異常発熱の有無を調べる。	各装置が正常に機能し、かつ、異常振動、異音及び異常発熱がないこと。